



寺院名物シリーズ㊹ 妙壽寺 (出雲組)

妙壽寺の足踏みオルガン

この足踏みオルガンは大正 11 年に当時の住職が、孫娘 (第 15 代坊守。現住職の祖母) の 1 歳の誕生日に贈ったものです。

長い間経蔵の中で眠っていましたが、縁あってまた本堂に置かれ、何度かコンサートで使用されています。

編集 御同朋の社会をめざす運動
発行 山陰教区委員会
〒六〇〇〇〇一 松江市大正町四三ノ一 本願寺山陰教堂
TEL 〇八五二 〇八五二 〇八五二 〇八五二 〇八五二 〇八五二
FAX 〇八五二 〇八五二 〇八五二 〇八五二 〇八五二 〇八五二
尾 〇八五二 〇八五二 〇八五二 〇八五二 〇八五二 〇八五二
了 〇八五二 〇八五二 〇八五二 〇八五二 〇八五二 〇八五二
信 〇八五二 〇八五二 〇八五二 〇八五二 〇八五二 〇八五二

実践運動第二期スタートにあたって

実践運動山陰教区委員会 副委員長 澤田 隆之

昨年六月法灯継承に当り、即如

を表明されました。

門主さま退任のご消息で「私たちの宗門は、門信徒一人ひとりに、み教えが受け継がれるという素晴らしい伝統をもっています。これから、社会の変動の中にあつて、浄土真宗のみ教えや伝統にある多様な可能性を見つけ出し、各人、各世代、それぞれの個性と条件を活かし、特に若い世代の感性と実行力を尊重して一人でも多くの方を朋とし、御同朋の社会をめざして歩むことができるよう願っております。」とご教示下さいました。

また、専らご門主さまはご消息で「本願念仏のご法義は、時代や社会が変化しても変わることはありませんが、ご法義の伝え方は、その変化につれて変わっていくかねばならないでしょう。現代という時代において、どのようにして法義を伝えていくのか、宗門の英知を結集する必要があります。(中略)

「重点プロジェクトと実践運動の関係性が周知出来なかった」とし、改めて、運動の目的を宗法第二条に置き、これを達成するために全ての組織、個人各々が課題を明らかにし、これの克服に向けて実践目標をかけた行動していくとするものです。

『自信教人信』のお言葉をいただき、現代の苦悩とともに背負い、御同朋の社会をめざして皆様と歩んでまいりたいと思います。」との決意

今年、第二期 (三年間) のスタートに当り、新たにスローガン「結ぶ絆から広がるご縁へ」のもと、重点プロジェクトの趣旨をふまえ教区実践目標を確認し、皆さまと共に活動してまいりましょう。

二〇一五(平成二十七)年度 矯正教化連盟山陰教区支部総会報告

五月十一日(月)午後一時三十分から、本願寺山陰教堂にて、八名のご出席を頂き開催されました。議題は以下の通りです。

- 一、平成二十六年 矯正教化連盟 山陰教区支部事業報告
- 二、平成二十六年 矯正教化連盟 山陰教区支部歳計決算報告
- 三、平成二十七年 矯正教化連盟 山陰教区支部事業計画案
- 四、平成二十七年 矯正教化連盟

山陰教区支部歳計予算案

- 五、輔導使について
 - 六、平成二十七年 本派矯正教化 広島管区支部研修会担当について
 - 七、役員の任期満了について(規約第六条)
 - 八、各施設状況報告について
- 輔導使の申請については、各自で取り計らう事となりました。連区研修会担当については、概ね原案通り

了承され、講師については決定せず、役員に一任となりました。また、二年の任期満了に伴う役員改選があり、支部長中尾了信教務所長、副支部長高野顯信先生、幹事藤森観海先生、幹事成相教専先生、監査上杉正之先生、監査内藤大拙先生にご就任頂きました。

二〇一五(平成二十七)年度 御同朋の社会をめざす運動(実践運動)山陰教区委員会(総会)

I、日時

二〇一五(平成二十七)年四月二十四日(金)十一時～十五時

II、会場

本願寺山陰教堂

III、協議事項

- 一、総合基本計画・重点プロジェクトについて事務局より説明。
- 二、各組推進事業、並びに講師派遣制度について事務局より説明。
- 三、点検報告書(PDCA)について事務局より説明。承認。
- 四、昨年度行事報告、並びに今年

度行事計画について事務局より報告。

- 五、部会(各部会に分かれ協議)
- 六、全体会(各部部长より発表)
- 七、その他
 - ・キッズサンガアドバイザー・キッズサンガ担当者会西原担当長より子ども・若者ご縁づくりについて説明
 - ・千鳥ヶ淵法要山陰教区参拝について事務局より説明

伝統ある京佛具を後世に伝えたい

浄土真宗本願寺派仏具専門店
寺院用 在家用 仏壇 仏具 記念品

株式会社
古田た佛具製作所

〒600-8227 京都市下京区七条堀川上ル菱屋町(西本願寺前)
TEL(075)343-2341 FAX(075)343-0836
フリーダイヤル 0120-178-413
フリーファックス 0120-343-036

JTB

感動のそばに、いつも。

株式会社 **JTB中国四国 松江支店**

〒690-0003

松江市朝日町498-6 松江駅前第一生命ビル2階

TEL 0852-23-6720

FAX 0852-23-7739

営業時間：9:30～17:30 (土・日・祝日休業)

寺院仏壮結成率アップに向けた取り組みを！
 〓 教区仏教壮年会連盟総会・研修会開催 〓

平成二十七年五月十日（日）
「二〇一五（平成二十七）年度山陰
教区仏教壮年会連盟総会・研修会」
が行われました。

午前中は教区仏壮連盟の総会を行い、午後より仏壮連盟講師の義本弘導師をお招きし、「これからの仏壮活動」をテーマとし、研修会が行われました。

山陰教区の仏教壮年会の抱えている問題に、お寺とのつながりやお寺へのお参りが年々少なくなり、それに伴い仏壮の世代交代が上手いかわず、会員の減少が進んでいるとの意

見が多く上げられました。

会員数の減少が理由で仏壮会の休会や退会をする単位会が見え始め、教区の寺院仏壮結成率がなかなか上がらない今だからこそ、仏壮会員の日ごろの活動や、各寺院とのかかわり方の見直しを行うことから始めなければなりません。

単位会を結成していない寺院への積極的な声掛けや、研修会への積極的な参加など、一歩ずつ確実に行動をおこし、継続していく事が大切だとの思いを持った研修会でした。

寄贈

布野信之宗会議員より、宗会副議長就任の記念（御礼）として、山陰教堂へマイク音響システムを寄贈いただきました。毎月の常例法座「灯映会」や、総局巡回、各種研修会、会議などで有効活用させていただきます。懸案のマイク不足がなくなり、音響も良いと好評です。この紙面をお借りしてお礼申し上げます。



平成二十七年
度
山陰教区布教団の総会・研修会

去る四月十四日、二〇一五（平成二十七年）年度山陰教区布教団の総会・研修会が山陰教堂教化センターにて開催されました。

研修会には、四州教区布教団長、竹條教悟師をお招きし「布教使のあり方」について聴講研鑽しました。

午後からは、「平成二十六年年度事業報告・決算書」「平成二十七年年度

事業計画(案)・予算(案)」について協議され、承認されました。寺院振興「ともしび法座」は十四年目に入り、開座寺院から大変喜ばれる事業になり、今年度も二十ヶ寺の開座を予定しています。また、鳥取ブロックにしかない常例線を島根県側に設置できないか役員会にて検討しています。



御本山  用達

株式会社 **川勝法衣店**

フリーダイヤル **0120-075-055**
(600-8344) 京都市下京区花屋町通油小路東入

電話 (075) **371-0367** (代)
FAX (075) **371-5088**

御本山御用達

フリーダイヤル TEL 0120-075-720

フリーダイヤル FAX 0120-075-490

開明社員

七五色黒打
條條衣敷
裂切布戸
娑婆粉袍帳



井筒法衣店



(〒600-8503) 京都市下京区堀川通新花屋町角(西本願寺前)

トロント仏教会のバッジ

「世界仏教婦人会大会に参加して」

松江組 (明宗寺) 玄 田 初 榮



私は、グローバルな「世界仏教婦人会大会」に、ぜひとも一度は参加してみたい、と思いついていました。四年に一度の本大会に、山陰教区からの参加者は、穴戸芳子代表 (明宗

寺) はじめ二十七人で、出雲空港から出発し、八日間の経験でした。

全日程を通しての感動は多々ありますが、紙数の制約上割愛し、深く心に刻み込まれたことがらのいくつかを記してみます。

第十五回のテーマや活動状況等は、諸情報紙でご周知のことですが、大会は、カナダ・カルガリー市のテラス・コンベンションセンターで、開催されました。

大会当日は、広い会場を一七〇〇人の門徒が、埋めつくしました。ご門主さまのご臨席をいただき、穏やかで物静かな雰囲気の中、大会が始まり、進行していきました。

一堂に会して行った「おつとめ」は、一七〇〇人の一人ひとりから発する心音のようなそれぞれの声が和して、しかもひとつの音となり溶け合って表現された「讃仏偈」と「重誓偈」は重厚であり、かつ心が豊かになり切れ圧巻でした。まさしく「海の内外 (うちと) のへだてなく」の歌詞どおり会場が一体となり、信心を核とした「声のつながり」の境地といえるものだ、と感じさせられた

第四連区・研修

「門徒推進員連絡協議会」

邑智西組 (長円寺) 香 川 良 三

六月中旬の南国高知は、もう早稲の穂が出始めておりました。

風土・気候もかなり違う中国四国の第四連区各地から集った、百二十名余りの門推員とのご縁を戴きました。

話し合い法座は、最初は遠慮がちに遠巻きに座っておりましたが、他班の声がかましく、しだいに膝がしらに触れ合うぐらいの小さな輪になりました。

『自他ともに心豊かに生きるのとはどういうことなのでしょう』というテーマのもと、百二十分のほとんどの時間は、各寺の現状や課題の発表でした。



どこも聴聞のお参りが少ないのが悩みですが、なかなか妙案は無いようです。

仏壮・仏婦・若婦と組織がしっかりとっているお寺は、やはり活発に活動されています。

なお、班としてのテーマのまとめは、『立場の異なる人とも対話を重ね、報恩感謝の気持ちを大切に生きる』です。

門推員として、微力ながらも法縁を広げていくお手伝いを再認識した研修会でした。

山陰教区仏婦連盟
総会・研修会

五月十三日 (水) 「平成二十七年度山陰教区仏教婦人会連盟 総会・研修会」が松江テルサにて開催されました。参加者は三九七

「おつとめ」でした。

大会前日に、トロント仏教会に立ち寄りました。現代的洋風のきれいな仏教会には、西本願寺から派遣された男性の開教使がいらっしやいました。予定時刻で立ち去る際に、自由にいただける品が、テーブルの上に置かれてありました。私は、黄緑のかわいいバッジに目が留まりました。それは、二センチメートル大の横長楕円形のもので、白い小さな英語の文字で、リブ・イン・ザ・モウメントと記されておりました。これは領解文の「一期をかぎりまもりもうすべくさうろう」の意だと、私は直観しました。それは、今年四月の燈映会の法座で、徳川真英師のご法話と重ねて考えられたからです。

モウメントは、一瞬とか現在という意味であり、「二期」も同意であつてその時その時の「今」を大切に、いつでも、どんな時でも、仏さまと向き合つて念仏生活に徹し、生かされて生きていこう！という、このバッジに共感いたしました。トロント仏教会の門徒の方々が、バッジを胸につけ、この言葉の意味を大切に宗教生活をしていらっしやる姿が、想像できました。私は、この宝物のバッジを、すぐに洋服の衿に取り付けました。

懇親交流会で九十歳のブラジルの



女性が、日本語で「移民で辛い生活だったが、仏さまを信じてきたことで安心感を得て、今は幸福」と、とても「いい顔」で話されました。

大切なものを求めようと集った同朋（きょうだい）。これからの私は、信心浅き自己を省みて、宗教や浄土真宗のみ教えを、理や心、感、体で学び続け、信心深き人間になりたい、と思った世界仏教婦人大会でした。

名でした。午後からの研修会のご講師は仏教婦人会総連盟講師の野村康治先生で「自他共に心豊かに生き

ることのできる社会の実現に貢献する「活動とは」という講題でご講話を賜りました。

中・四国ブロック少年連盟指導者研修会

大田東組 専勝寺 金盛 徳照

平成二十七年六月二十四、二十五日の二日間、本願寺山口別院にて行なわれた「中四国ブロック少年連盟指導者研修会」に参加させていただきました。初日は九州遊びの研究所所長の中島宏先生のレクリエーション、二日目は山口県聴覚障害者情報センターの片山京子先生ら三人による手話の講義でした。

中島先生の講義は「体を動かして元気に遊ぶ。」というイメージがあつたのですが、今回は工作や一人で遊べるものをご指導いただきました。その中で、森の絵の中に動物や人が隠れていて、それを探す遊びがありました。何が隠れているのかは予め教えてくださったので、どこに隠れているかを探しつつ、隣や前後の席の方と教え合いました。その時に中島先生が「このゲームで気をつけるのは、一人で寂しく見ている子がいらないかを見ることですよ」とおっしゃいました。ただゲームをするだけではなくて、子どもたちの様子に目を配る事が大切だとあらためて気づかされました。また、「子どもたちが興味をもつものをいくつポケットに持っておけるかが大事です。」と聞かされ、研修会で学んだことを実践したり、情報交

換をしたりしながら研鑽していかなくてはいけないと感じました。

二日目は、片山先生がご自身の手話の関わりを通して、耳の不自由な方とのコミュニケーションについてお話をいただきました。私は手話ができませんが、口を大きく開けて話せば会話ができると思っていました。しかし、耳の不自由な方には音としての情報が無いため「外科」を「そとか」「内科」を「うちか」と読んでしまい、会話が通じなくなることもあったと教わり、自分の認識の甘さを痛感しました。「手話は言語です。」と言われた意味が少しながらわかりました。その後、三つのグループに別れ、手話の挨拶や自己紹介のやり方を学び、各グループ一人ずつがみんなの前で自己紹介をして終わりました。

多くの大切なことに気付かされた、楽しく意義深い研修でした。



山陰教区宗門総合振興計画にかかる 「総局巡回」報告

二〇一五（平成二十七）年六月十五日（月）午後二時三十分より午後三時三十分まで、本願寺山陰教堂本堂において開催されました。

この度、原田光生（晃耀）宗会議員と小笠原義宣宗会議員が伝灯奉告法要の本部長にご就任されました。法要本部長は、総務や副総務が就任されている要職でありますので、二名同時にご就任されましたことは教区の祝事です。

宗派からは、山階昭雄総務、武野公昭副総務、原田晃耀宗門伝灯奉告法要教化本部長、小笠原義宣宗門伝灯奉告法要警備・誘導本部長、小島寛隆寺院活動支援部国内伝道・寺院支援担当・過疎地域対策担当部長、鷺山仁志子ども・若者ご縁づくり推進室賛事の六名にご出向頂きました。教区からは五十四名と多数の参加を頂きました。

始めに、教務所長挨拶、ご二行紹介、総局挨拶がありました。第二十五代専如ご門主の法灯継承と、宗門総合振興計画のDVDを視聴し、部長より概要の説明がありました。宗門総合振興計画は、親鸞聖人七百回大遠忌より出発し、先の七百五十回大遠忌宗門長期振興計画と連動するとともに、八百回大遠忌に向かつての百年

間の宗門大計の中の十年計画として策定されたものです。基本方針で、仏教の精神に基づく社会への貢献、自他共に心豊かに生きる生活の実践、宗門の基盤づくりが掲げられています。

質疑応答では、宗門総合振興計画の収支計画について厳しいご質問がありました。計画内容が大雑把、ご門徒への負担が重い、大遠忌法要からこの度の募財期間が短すぎるなどのご意見も賜りました。部長から重ねての説明の後、総局からは、この混沌とした時代にご就任頂いた若い専如ご門主をお支えし、宗門の興隆のためにご理解ご協力を頂きたいと結ばれました。



ビハール山陰

総会・研修会開催

二〇一五（平成二十七）年五月十九日（火）
会場・本願寺山陰教堂教化センター

午前は総会を開催、前年度事業並びに決算、監査報告そして新年度の事業計画・予算案を審議しました。

午後からの研修会は、松江市立病院緩和ケアセンター長で医学博士の安部睦美先生を迎え、「ホスピス・緩和ケアに求められるもの」という講題で、患者さんとかかわりの中での様々な事例を紹介いただき、ご講話をいただきました。三十三名の参加でした。



いつまでも色あせない思い出を

遺稿集・追悼集 10冊でも格安で お引き受けします。

自分史、家族の記録、写真集、イラスト・スケッチ集（絵手紙集）、絵画・書の作品集、旅行記、歌集・句集、研究書（地区の歴史、地名の由来、趣味の研究記録）、地域の昔話集、絵本、団体・サークル活動記録・記念誌、寺院の歴史・記録、お勤め用冊子など

先ずはお電話・FAX・メールにてお問い合わせ・ご相談ください

（株）谷口印刷 Tel (0852) 36-5888 Fax (0852) 36-5889

mail: vodka@tprint.co.jp (担当・岩橋)

手をあわせ 心あわせて しあわせに

報恩

感謝



ぶつだんの

内田裏造商店

・木次・ 下熊谷・ 出雲・
☎0854-42-0266 ☎0854-42-3711 ☎0853-21-3253

六月二十日の夜七時、子どもから八十代までの人たちの熱気とスカ（音楽のジャンル）のリズム、そしてお念仏。すべてひとつとなり本堂全体に響き渡った。私自身、お寺では初めての体験である。まさに『感じるお寺』となった。

全ての世代の方にお寺と関わりてほしいという思いから今回の集いを開催した。

この時期は先代住職の代から毎年一回、著名な方を招いて真宗文化講座を開催していたが、二十回目を区切りとしてしばらく休んでいた。私の代になり「何かしたい」という思いはずっとあったが具体的に思い浮かばない。そんな中、山陰教区の僧侶だけのバンド、ザ・スペシャル坊ズ、のを知り、早速、出演依頼をお願いしたことが今回の『感じるお寺』の第一歩となったのである。

「せっかくお寺でライブをするのだから、いろんな方に来てもらいたい。今まで縁が遠かった世代にもお寺に足を運んでもらいたい。」そんな想いが膨らみ、ならばどうしようか考え、お勤めを音楽法要とし、そこに坊守の友人を中心としたコーラス隊を結成した。他にも、まだ私たちと縁のない

若い人達にも来て欲しかったので、地元のブラスバンド同好会にお願いして演奏していただいた。ブラスの演奏があると、その関係者もお寺に足を運んでくれる。コーラス隊やブラスには若いお母さんもおられるので託児所を設け、併せてこの時間帯に子ども会も行った。子どもは縁を駆けめぐり、若者は



リズムに乗りながら、中高年は静かに音楽を楽しむ。幼児から年配の方まで幅広い世代の参加となったのである。

夕方から夜にかけての集いなので、ブラスの演奏とスペシャル坊ズのライブの間、休憩を兼ねてフールドコーナーを用意して子どもも楽しめるようにしてみたのだが、予想以上の賑わいで、ここでも大盛

況だった。

実際、一番盛り上げてくれたのはブラスの方で、演奏の時は飛び入りの参加があり、スペシャル坊ズのライブは全員総立ちとなってカラダ全体でお寺を感じてくれた。

終わってみれば、若い人だけではなく、子どもから大人まで100名あまりの人が参加して下さり、その半分近くが今回初めて来られた方々だった。「また次もしてください！」という声をたくさん戴いたのだが、さて次回、今回ご縁に遇った人達と次回もどう繋げていけるか、大きな課題が出来た。今から来年のことを考えねば・・・。



お仏壇・仏具は やっぱり京都・・・



SINCE 1830

心に残るご法要を
Support
750
MADE IN KYOTO

伝統工芸 京仏壇・京仏具

(株) 若林

www.wakabayashi.co.jp

京都本社／京都市下京区七条通新町東入
☎(075)371-3131 代年中無休〒600-8218

フリーダイヤル ☎0120-37-8585 (各店共通)

東京店・築地店・札幌店・仙台店
近江草津店・福岡(営)・新潟(営)

E-mail info@wakabayashi.co.jp

法要奉灯伝

◆平成28年

第1期：10月1日～8日

第2期：10月20日～27日

第3期：11月4日～11日

第4期：11月18日～25日

◆平成29年

第5期：3月7日～14日

第6期：3月28日～4月4日

第7期：4月11日～18日

第8期：4月25日～5月2日

第9期：5月9日～16日

第10期：5月24日～31日



実践運動の具現化

松江組長 高野 顯 信

「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)が大遠忌法要後の大きな指針として展開されてきて、四年になります。私達僧侶、寺族、門信徒のあり方を厳しく問い直す機会としなければなりません。

松江組は、離島、中山間地、都市部の二市二郡の環境状況の異なる広範囲の中に、四ヶ寺の住職不在、五ヶ寺の住職代務を含む十八ヶ寺から構成されています。圧倒的に禅宗地盤、神道意識の強い中で、法義相続に苦勞してこられた、現代の姿です。

歴代伝えられてきた県都での法義を、今後どのように発展させていくのか議論の中、組目標を「日常の寺院活動―地域と寺院―人とひとのつながりの強化育成」とし、その目標具現化の為に各寺が実践目標を設定、評価、公表しスタートしたのでした。「各教化団体の見直し」「門徒の拡大」「法座の参加増大」「揭示伝道・文書伝道の開始」等々、当該の寺の問題点をテーマとしたものでした。その結果「新しい参加者の増大」「地域(町内)の連携増加」「寺と門

徒が近くなった」等々プラス感のほか「住職の法話」「すべての固定化とマンネリ化」「地域行事との関連」など功罪があぶり出されてきたようです。思考錯誤の中で、「なんとかしなければ」の問題意識が芽生えたように思うことです。

その三ヶ年の後、今年度から「日常の寺院活動―少子高齢化の中での教化活動、法座活動の活性化」とし、今一度、各寺は、何を取り組んでいくのか目標設定をきっかけ、三年後に細やかでも「気づき」があるよう努力しているところです。

僧侶、寺族、門信徒が、どれだけ危機意識を感じているのか。混沌とした時代、農業、漁業、商業が変革を迫られている中で、寺院が「おっちら」としている時代ではないようです。寺からの発信と考えて、組内寺院の相互の意見交換を密にしていきたい今日此頃です。

せめて十年後に「やってよかった」と回顧できる姿になりたいものです。

編集後記

教区報「さんいん」一三二号をお届けいたします。ご覧ください▼「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)が推進されて今年の四月で早くも四年目に突入しました。教区をはじめ各組・諸団体においても二期目の実践目標を掲げ展開中です。また宗門では伝灯奉告法要をはじめ親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要を展望した「宗門総合振興計画」がスタートしました▼社会に開かれた宗門をめざす運動の中でショッキングな報道が過日なされ、改めて念仏者としての生き方、僧侶としての自覚を新たに持ち精進すべしと異例の総長談話が発表されました。僧侶・住職の育成の徹底が重点となる結果となりましたが、これらの報道は他人ごとではなく自らを省みるご縁でもありました▼これからの実践運動が社会に開かれるには、日常生活の中で一人ひとりが念仏者という自覚を持ち活動することがさらに求められます▼今号の教区報はカラー四頁仕立てです。予算の関係上、毎号フルカラーとはいきませんが、今後新企画や連載物を取り入れさらに充実させてまいります。(T)

協賛
瀬尾浩義商店

〒七三三〇八五
広島市西区田方三丁目
九〇九一―一三〇一
TEL〇八二―二七二―八四六一

伝灯奉告法要の団体参拝は我が社にお任せください!

近畿日本ツーリスト

株式会社近畿日本ツーリスト中国四国 山陰支店

TEL : 0852-22-4893 FAX : 0852-27-8359

〒690-0887 松江市殿町 517 アルファステイツ殿町 1F

観光庁長官登録旅行業第 1926 号 総合旅行業務取扱管理者 青山光弘

担当者: 佐藤・平崎・門田

山陰教区ホームページ (<http://www.saninkyoku.net/>)

山陰教区

検索